

大阪市立美術館開館八十周年記念

デトロイト美術館展 大西洋を渡ったヨーロッパの名画たち

モネ ルノワール ゴッホ セザンヌ マティス ピカソ

2016年7月9日(土) — 9月25日(日)



自画像 フィンセント・ファン・ゴッホ 1887年



白い服の道化師 ビエール・オーギュスト・ルノワール 1901-1902年



窓 アンリ・マティス 1916年

1885年に設立されたデトロイト美術館は、良質なコレクションと規模によって、メトロポリタン美術館やボストン美術館、シカゴ美術館などともに全米屈指の美術館として高い評価を得ています。

20世紀初頭よりデトロイトは、自動車産業の中心地、「モーターシティ」として繁栄しましたが、美術館の活動に理解を示すフォード一族に代表される多くのパトロンからの支援や、歴代の館長たちのすぐれた指導により、コレクションの総数は66,000点を超え、古代から現代まで世界の美術の歴史を概観できるようになっています。

デトロイト市が位置するアメリカ中西部は、気候風土がヨーロッパと似たところもあり、市民はそれぞれの故国の美術的伝統を、郷愁や誇りもこめて美術館のコレクションとして積極的に取りこんできました。しかしながら、近年のデトロイト市の財政破綻により、時価総額で85億ドルと試算されているコレクション

も債務処理のため売却される危機にさらされましたが、一方で市民や周辺自治体から、美術館とコレクションを守り抜こうとする運動も強くなり、アメリカのみならず、デトロイト市の大切な文化的資源としての意義がますます深まっています。

こうした事情も踏まえて私たちは、『デトロイト美術館展—大西洋をわたったヨーロッパの名画たち』というタイトルで展覧会を開催します。なかでも、アンリ・マティスの『窓』（1916年）とともに、最初に大西洋をわたってアメリカにもたらされた自画像として知られるファン・ゴッホの『自画像』（1887年）はその代表作と言えましょう。クールベから印象派にいたるフランスの近代絵画、またドイツ表現主義など、デトロイト美術館の近代美術の傑作から選りすぐられた52点を「印象派」、「ポスト印象派」、「20世紀のドイツ絵画」、そして「20世紀のフランス絵画」のセクションに分けて紹介します。

（篠 雅廣）